子供・高齢者の交通事故が多発！
行動特性を先読みした安全運転を

歩行者に注意を払うことは、安全運転への最重要課題のひとつ。特に、子供や高齢者は思わぬ行動を取りがちです。5月に入り、新入学した小学生などは学校にも慣れて行動的になってきます。そこで、ドライバーが改めて確認すべき事項をまとめた『安全運転 キホンのキ』。今月は子供・高齢者の行動特性と事故防止のポイントを紹介します。

子供の行動特性　急に動き回り、走り回る ▶ 予測不能

子供の世界は自分中心

子供（12歳以下）の事故の特徴は、“飛び出し”がとても多いこと。それは、物事を自分中心で考え、周囲の状況に注意を払わず行動するという子供の特性があるからです。例えば、道路の反対側に興味を持つものがあれば、脇目もふらずに一直線に走りだします。また、友達とふざけあっていて急に道路に出てきたり、1人が飛び出すとほかの子供たちも次々に同じ行動をしたりもします。このようにドライバーが予測していても、それを超える行動がよく起こります。

子供は発見が遅れがち

子供は大人に比べ背が低いため、物陰に遮られ発見が遅れることも。例えば駐車している乗用車の脇を親子が歩いている場合、ドライバーから大人は見えても、子供の姿に気づかないという危険が潜んでいます。

親と一緒でも、油断は禁物

親子で歩いているのを見かけた時、“親と一緒だから大丈夫だろう”と思い込むのは危険なこと。手をつないでいてもそれを振り払い、急に駆け出す場合もよくあるので油断は禁物です。

子供の行動特性を考えた安全運転のポイント

①あらかじめスピードを落とす
学校や公園付近、通学路など子供が多い場所を走行する時は特に注意しましょう。

②子供の近くでは常に慎重な運転を
たとえ親と一緒に歩いていても、安心せず慎重に運転をしましょう。

③車両の陰に隠れていないか注意
駐停車している車両付近では、子供が隠れていないかどうかを念頭に置いて走りましょう。

高齢者の行動特性　認知不足、判断困難、行動の遅れ ▶ 予測不能

身体能力の低下が事故に直結

高齢者の事故の大半は横断中に発生しており、車両が接近しているにも関わらず横断してくるケースもよくあること。また判断力が低下しているために、車のスピードを的確に判断することが難しい人も。そのため「横断できる」と自分で判断してしまい事故につながっています。

車両の直前・直後の横断に注意

高齢者は、車両が通過した直前・直後の道路を横断する傾向があります。例えば片側一車線道路において、手前の道路を車両が通過した直後に渡りはじめ、反対側から来る車両に気づかず事故に至ってしまうことも起きています。

早朝・深夜に出歩くことも

高齢者が出歩くのは、昼間だけとは限りません。目覚めるのが早ければ明け方、また深夜の場合もあります。そして、目立ちにくい地味な服装をしていることも。“こんな時間帯だから人がいるはずはないから大丈夫”と思い込むのは危険です。

なぜ高齢者は車に気づかず横断するのか

- 視力や聴力の低下によって、車の姿や音に気づきにくい
- 振り返るなどの動作が鈍く、道路状況をよく確認できない
- 周囲の状況に関係なく、自分の思い通りの行動を取りがちになる　など

高齢者の行動特性を考えた安全運転のポイント

①行動に注意した運転を
道路脇に高齢者を見かけたら、横断してくるかもしれないと考えてスピードを落とし、行動に注意しましょう。

②視野を広くして確認を
自車線側だけでなく対向車線側の道路脇にも目を向けて、横断しそうな高齢者がいないかどうかを確認しましょう。

③早朝・深夜の運転は十分注意
早朝や深夜に出歩く場合もあるので、昼間と同様に慎重に運転しましょう。

子供や高齢者の予測のつかない行動に注意して、安全運転を。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用トラックドライバー研修テキスト9 危険の予測及び回避」